

令和 5 年度（2023 年度） 第 1 回熊本市障がい者自立支援協議会

日時 令和 5 年（2023 年）5 月 31 日（水） 14 時半～

会場 熊本市中央公民館 7 階ホール

出席者 園田委員、大関委員、大島委員、谷口委員、中山委員、平田委員、津國委員、森田委員、志田委員、山田委員、松本委員、小篠委員、里委員、林委員、古閑委員、西委員、松村委員、本田委員、菊池委員、岡田委員

配布資料

【第 1 回】

（事前送付）

- ・障がい者自立支援協議会について
- ・熊本市障がい者生活プランの策定について
- ・第 7 期熊本市障がい福祉計画・第 3 期熊本市障がい児福祉計画の策定について
- ・資料 1 熊本市障がい者相談支援センターモニタリング結果報告
- ・資料 2 児童発達支援センター機能強化事業について
- ・資料 3 部会報告
- ・資料 4 障がい者相談支援センターからの報告
- ・資料 5 障がい者相談支援センターの役割
- ・医療的ケアが必要なお子さんと家族のための支援ガイドブック

議事要旨

進行	<p>1 開 会</p> <p>2 事務局挨拶</p> <p>3 委員紹介 *委員名簿をもって代える</p> <p>4 事務局紹介 *席次表をもって代える</p>
企画調整班	<p>5 事務局説明</p> <p>資料に基づいて説明</p> <p>障がい者自立支援協議会について</p>
進行	<p>6 会長選出・副会長指名</p> <p>委員の互選により、菊池委員を会長、岡田委員を副会長とする。</p>
事務局 企画調整班 地域生活支 援班	<p>7 議事</p> <p>(1) 報告案件</p> <p>資料に基づいて説明</p> <p>資料1 障がい者相談支援センターのモニタリング結果について</p> <p>資料2 児童発達支援センター機能強化事業について</p> <p>熊本市障がい者生活プランの策定について</p> <p>第7期熊本市障がい福祉計画・第3期熊本市障がい児福祉計画の策定について</p> <p>医療的ケアが必要なお子さんと家族のための支援ガイドブック</p>
菊池会長	今の報告に関してなにか質問等はないか。
岡田副会長	「医療的ケアが必要なお子さんと家族のための支援ガイドブック」を見たが、とても良いガイドブックだと思う。医療的ケア児と家族については、自立支援協議会の中に位置づけて今後議論がなされていくのか、それとも別途委員会等で検討が行われており、今回の報告が行われているのか。
事務局	自立支援協議会とは別に会議の場を設けており、そこで検討した内容を障がい者生活プラン等に反映する予定となっている。
菊池会長	自立支援協議会でも、直接の代表ではないが、当事者団体から折に触れて医療的ケア児等についての意見や要望を挙げてもらっている。 他に質問はないか。
里委員	プラン等の策定に係る当事者アンケートについて、どのような形態で調査を行うのか。
事務局	多様な方の意見を集めるため、Webサイトなどで回答ができるよう検討している。
岡田副会長	知的障がいのある方もできるだけ本人が回答できるよう工夫してほしい。また、鹿児島では精神科の協会と連携してデイケアに通う方や入院している方も回答ができるようにする、事業所や地活センター等の様々な場所にアンケート用紙を設置する等の方法を取っていた。ぜひ多くの方が回答できるようにしてほしい。
事務局	知的障がいのある方等の意見ももらえるよう、本人と家族や支援者が一緒に回答

	<p>できるような方法を検討し、様々な場所・方法で回答可能なよう取り組んでいく。</p>
松村委員	<p>こういったアンケートがしっかり今後の熊本市の政策に反映していったほしいと思っている。そこで、アンケートで市民からどのような意見が集まったか、それがプランや計画にどのように反映されたかを確認する機会はあるか。</p>
事務局	<p>アンケートの結果や反映状況は、自立支援協議会内で報告や広報に掲載する等、これまでと同様のかたちで公表していこうと考えている。</p>
松村委員	<p>可能な限り多くの意見を見たい。反映された意見だけでなく、反映できなかった意見についても、情報として共有できるようにしてもらいたい。</p>
菊池会長	<p>障がい者施策推進協議会の中で、骨子案と共にアンケートの結果が示され、最終的にはパブコメも行われるので、そこで開示して広く意見を反映していただきたい。</p> <p>(2) 各部会報告</p> <p>続いて、各部会報告をお願いしたい。</p>
森田委員 志田委員 大島委員 谷口委員	<p>資料に基づいて報告</p> <p>資料3 各部会報告</p>
菊池会長	<p>ただいまの報告に関してなにか質問等はないか。</p>
西委員	<p>相談支援部会の地域課題班グループワークの議題に、「短期入所の利用について」とあったが、短期入所については、近年コロナ禍で受け入れが困難なことや、国の施策の方向性として、地域移行の観点から短期入所の充実を進めていることなど課題の一つであるため、よろしければどのような内容のグループワークだったのか教えてもらいたい。</p>
大島委員	<p>部会内で様々な地域課題を出した際に、コロナ禍や障がいの特性により短期入所の受け入れが難しいことがあるという課題が出た。その中でどんな短期入所があれば利用者や家族が使いやすいのか、また、各相談支援専門員がどのようなケースを抱えているか等の意見交換を行った。その中で、受け入れ先を探す際に、短期入所の空き情報や支援の内容などが一目でわかるような情報集約の場が欲しい、という意見も出た。</p> <p>他にも、利用者側の意見を把握するだけでなく、短期入所事業所側の意見も聞く必要があるのではないかと、という話も出ており、今年度の部会の取り組みでアンケートを取って、短期入所の現状や課題についての話し合いをしたいと考えている。</p>
西委員	<p>短期入所は家族のレスパイトや、本人の一人暮らしへ向けたステップアップの第一段階として重要な位置づけのものだと考えているので、今後もこういった対話や意見交換があれば、ぜひこの場でも紹介していったほしい。</p>

菊池会長	<p>(3) 障がい者相談支援センターからの報告</p> <p>続いて、相談支援センターからの報告をお願いしたい。</p>
園田委員	<p>資料に基づいて説明</p> <p>資料4 障がい者相談支援センターからの報告</p>
菊池会長	<p>ただいまの報告に関してなにか質問等はないか。</p>
里委員	<p>昨年度第2回の自立支援協議会で、支給決定までの期間が区によって差があるという意見に、各区と調整を行っていくと話があったと思うが、その後どうなっているか。</p>
園田委員	<p>各区福祉課との意見交換を行っており、その中で、支給決定期間についても引き続き相談支援センターと各区で情報を共有しながら進めていく、ということで話をしている。</p>
菊池会長	<p>この後の意見交換でも、そういったニーズ等をあげていただければと思う。</p> <p>(4) 意見交換</p> <p>それでは事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>資料に基づいて説明</p> <p>資料5 障がい者相談支援センターの役割</p> <p>*障がい者相談支援センターに望むことについて、ご意見を伺いたい。</p>
菊池会長	<p>まずは、実際に業務を行っている、相談支援センターの委員から現状等をお話しいただきたい。</p>
園田委員	<p>相談支援センターとして多岐にわたる業務に対応しており、子どもから高齢者に至るまで、多くの当事者やその家族の相談内容をしっかり受け止めながら、何ができるのかを一緒に考えていく、ということを行っている。</p>
大関委員	<p>当センターは母体が精神科病院ということもあって、関連する相談が多く、電話対応に追われている。ご理解いただくのに時間を要することもある。8050問題の相談も多く、自宅を訪問して本人だけでなく家族にも、状況確認や親亡き後の話も含めて時間をかけながら支援をしている状況。また、地域支援に関しては小学校から大学、定時制高校へサポーター研修を実施し、昨年度は17か所で開催した。</p>
大島委員	<p>東区は人口が多いこともあり、毎日のように地域の相談が入ってくるような状況が続いている。以前は身体・知的障がい者に関わることも多かったが、最近は障がい種別を問わず様々な方から相談がある。最近の傾向は、先ほどもあった8050問題や介護保険利用者の若い方の就労に関する相談が増えている。毎月のささえりあとの情報交換会で、相談支援センターの役割や介護保険への移行の問題を含めた様々なケースの情報交換を行う中で、障害福祉サービスへの理解が深まったことも相談の増加につながってきていると思う。医療的ケア児の支援についてもまだまだ勉強しなくてはならないことが多く、当センターでも様々な知識をど</p>

	<p>うやって深めていくかが一つの課題になっている。また、地域の特定相談事業所と一緒に、支援の向上のためにどうしていくべきか、ということの日々検討している。顔の見える関係からさらに一步深めた関係を目指して、今後も継続的にやっていかなければと感じている。</p>
谷口委員	<p>同じく東区を担当しており、住民規模の多い圏域で多種多様な相談がある。特に最近、福祉サービスの人材不足や高齢化を感じており、若い人材がこの分野に入ってくれるような流れも考えなければならないと思う。福祉サービスの対応だけでなく、住民と連携した地域づくりをまちづくりセンターや民生委員と協力しながら行っているが、より深く地域に入っていく必要があるというのが所感。</p>
中山委員	<p>当センターでも、様々な障がい種別に係る相談があっており、最近では2～5歳の子を持つ保護者からの相談も増えている。ささえりあからの相談も増えており、特に多いのが、支援中の高齢者の家庭に障がいのある家族がいるようだが、どのように関わって支援に繋げていけばよいか、という内容。先月、市で行われたささえりあとの研修会を通じ、今後の連携について情報共有が図れたため、入り込んでいきやすくなっていくのではないかと感じている。</p> <p>他に、医療的ケア児の研修についても、職員が受けてはいるが、具体的なサポートをした事例がまだあまりないため、そういった知識をセンター間で共有することで知識の底上げを図り、相談支援センターの質を向上させて、統一したサポートができるようにしていきたい。</p> <p>就労については、同法人に障がい者就労・生活支援センターがあるため、比較的サポートに強みを持って対応している。</p>
平田委員	<p>当センターも他と概ね同じ状況。特に意識しているところは、地域の特定相談支援事業所の後方支援と人材育成。しかし、まだ知識不足のところもあり、どのように勉強と特定相談支援事業所への知識の還元を両立するかを模索している。医療的ケア児等コーディネーターや成年後見支援センターの窓口なども担っており、支援の幅が広く、人材育成が追い付かないのが現状。</p> <p>年度当初に圏域内の特定相談支援事業所を回ったところ、件数が多く手厚い支援ができない、経営的に厳しい、という声があった。南2圏域と隣接している宇城圏域ではモニタリング検証を行って、後方支援や人材育成をしており、我々や圏域で、共に考えることができる人材を育成することが急務。経営の面では、サービス等利用計画に係る基本報酬を上げるため、圏域内の複数事業所で協定を結ぶことを検討できないか、アンケート等で実態を確認しつつ、行政や他相談支援センターと相談していきたい。</p>
津國委員	<p>当センターの母体は精神科病院のため、当初は精神障がいの方に関する相談が多かったが、現在は他相談支援センターと同じく幅広い障がい種別の相談が増えている。精神障がい以外の方への対応に関しては、知識不足のところもあるので、</p>

	他事業者も相談しながら進めている。あとは地域支援員が行政や民生委員、小中学校に挨拶回りをして、啓発活動を行っているが、そちらからの紹介で相談が上がってくることも増えている。
森田委員	現在の圏域を担当してから3年目で、地域についてまだまだ知っていかなければならないと常に考えながら業務にあたっている。地域支援を中心に、障がいについての啓発活動やささえりあとの連携、民生委員との情報共有等、連携強化を中心に図っている。あとは、人材不足の件についてもよく耳にする。担当圏域は特にサービスの空白地帯となっており、安心してサービスを受けられるような体制づくりが必要と考えている。また、地域の相談支援体制の強化や支援、地域定着は人がいないと始まらないので、学校への支援の実施も活発に行いながら、将来の福祉人材を確保できるようなアプローチも今後必要と考えている。
菊池会長	大方共通する部分としては、利用者の多様化。相談支援センター、もしくは担当者ごとの得意分野があるが、絶対的な量が足りていないため、想定幅を超える多様なニーズに対応せざるを得ない。そのため、相談員の研修等を行い、専門性を高めていく必要があるということ。もう一つは、そもそも人材不足等により、総量自体が足りていない、余裕がないということ。これらが現状として見えてきたように思う。 続いて、他の委員から相談支援センターに対する評価や要望をいただきたい。
林委員	私は中小企業家同友会の主に健常者の方の雇用が中心となる共同求人委員会の委員長をしているが、まだ会員の中でも障がい者雇用についての認知が進んでない現状があり、障がい者雇用の勉強のためダイバーシティ委員会にも参加した。多くの中小企業がよりよい地域づくりを目指しており、市内にもいくつか支部があるので、各支部と相談支援センターや行政が集まって話ができる機会をつくり、連携していけるようなかたちを模索したいと感じた。
菊池会長	地域連携のため、福祉以外の地域の事業所、中小企業との連携や地域のリソースを使っていくことも視野にいれていくとよいと思う。
小篠委員	医療的ケア児の多くが何かしらの障がいを有しており、こうして自立支援協議会に参加して話し合えることはとてもありがたく思う。また、相談支援センターには医療的ケア児の支援に協力していただき感謝している。医療的ケア児についてはまだまだ課題が山積しており、特に医療的ケア児の就労の部分については専門外の部分が多く、相談支援センターや就労部会に協力いただきながら、今後、どのように連携していくか、行政も交えて検討していきたい。
山田委員	多くのキーワードが、児童発達支援センター機能強化事業とも重なると感じた。地域とのつながりの中で、「顔の見える関係から一歩深めた関係」を目指し、各関係機関と共に一歩深めるために考えていきたい。また、児童分野で2歳以下の児童と関わる中で、福祉サービスの要不要の判断の際、周囲が先を急ぎすぎると

	<p>いう課題があり、それについても相談支援センターや相談支援専門員と一緒に考えていけたらと思っている。</p>
松本委員	<p>同じく、児童発達支援センター機能強化事業と共通する課題が多いと感じた。自分の場合、特に東区の相談支援センター2か所と協力してもらうことが多く、忙しい中で地域資源や事業所へのアプローチの仕方等のアドバイスをいただきとてもありがたく思っている。地域の児童が福祉の入り口に立った際、最初に関わるのが相談支援事業所および相談支援センターだと思うので、これからも連携しながら共に頑張っていきたい。</p>
菊池会長	<p>資料1によると、相談支援センターの障がい児利用者が着々と増えているので、児童関連の相談については、児童発達支援センターとの連携がますます必要になると感じた。</p>
古閑委員	<p>相談支援センターには普段から後方支援をしてもらっており、大変頼りにしている。望むこととしては、日々利用者と接する中で、相談支援専門員はたくさん情報を持っていると思うが、同法人に相談支援事業所がない施設は情報がなかなか手に入りにくいいため、情報共有できる術があればもう一步踏み込んだ支援ができるのではないかと感じた。</p> <p>先ほど相談支援部会の話で短期入所事業所についての話し合いを検討しているとあったが、そこで得た情報等を事業所側に提供してもらえたらありがたい。受け入れが出来る事業所がどんな工夫をしているか共有できれば、受け入れできる事業所ももっと増えるのではないかと思う。</p>
菊池会長	<p>そういった好事例や取組みに関する情報は、相談支援センターが一番把握していると思うので、それをまた横の施設につないでくハブ的な役割としても必要だと感じた。</p>
本田委員	<p>自分は熊本難病・疾病団体協議会で勤務しているが、なかなか障がい福祉事業の中で難病の利用者の割合が少なく、あまり認知されていないように思う。難病について、相談支援センターと一緒に勉強できるような研修の機会があればいい。</p> <p>自分も難病患者だが、昨年身体障がい者手帳を取得したところ、様々な制度が使えることに驚くと同時に、難病患者にも手帳や、それに伴う各種支援の制度があればいいと感じた。</p> <p>また、難病患者や医療的ケア児に関わるので、今後会議に医療関係の部署も出席してもらえたらありがたい。</p>
菊池会長	<p>難病・疾病関係はニーズや支援制度がまだ整理しきれていないように思うので、相談支援センターとの情報交換や連携を深めていくことが必要に思う。</p>
西委員	<p>身体・精神障がいの場合、比較的自分の意思表示ができるが、知的障がい者の場合は自分で困り感を訴えることができず、家族も困り込みのようなかたちと一緒に住み続けてそのまま年齢が過ぎていき、いつの間にか8050問題に、という</p>

	<p>例も多い。相談支援センターにはそういった行き詰った家族の相談が多く上がっていると思うので、ささえりあとの連携などをもっと強めて行ってほしい。</p> <p>また、特定相談支援事業所からも様々な相談を受けていると思うが、区によって人口もニーズも違うので、そういったことも共有しながら、地域の特定相談支援事業所の力になってほしいと思う。</p>
菊池会長	<p>知的障がい者を中心に、自力で支援まで行き着くことができない方に対する予防的な意味でのアウトリーチがもっと必要になると感じた。</p>
松村委員	<p>障がい児の利用者数が着々と増えている一方、8050問題の相談も増えているということで、親亡き後に当事者の地域移行をどう進めるかも大事なテーマとして届けていけたらと思う。相談支援センターだけでなく、そういった支援をしている他の事業所や、我々当事者団体も含めて一緒に議論をしていく場を作っていただきたい。</p> <p>人材不足については、自分からするとこれほど一生懸命やっている相談支援センター、もっといえば福祉に関わる人たちがどれだけ魅力的なことに取り組んでいるのかを知ってもらうことが必要。つい当事者だけに目を向けてしまいがちだが、もっと視野を広げ、福祉に関わる仕事についての市民への啓発活動も自立支援の中に含まれているのではないかと思う。</p>
岡田副会長	<p>相談支援センターの方たちは、本当に頑張っていると思う。地域のネットワークとして団体同士でのつながりが進んでいる。反面、困難事例を経て回復した当事者や家族のセルフヘルプグループやピアサポーターの活動が少し弱いように感じる。それが現実化できるような行政や専門職のサポート、ファミリーソーシャルワークが必要。相談支援センターは地域支援や虐待対応など様々な支援をしていると思うので、障がいのあるすべての人が支援を受けられるよう、そこで得た知見を福祉に反映させるために自立支援協議会でも積極的に意見を出していくことが大事だと思う。</p>
菊池会長	<p>相談支援センターは、ある程度の量に面的に対応をしながら、一つ一つの事例に対してしっかり関わっていく質の面が求められると思う。そこに対して行政がどのようにバックアップし、役割を整備しながらやっていくか。また、横のつながりというキーワードが出たが、相談支援センターが各圏域のハブ的な役割を担っているのは間違いないので、そこがより掘り起こせるような取り組みをもっと進めていく必要があると感じた。</p>
事務局	<p>3 事務局連絡</p> <hr/> <p><u>次回は11月の予定。</u></p> <p>4 閉会</p>